



アーク証券

安藤龍彦代表取締役会長

仕事量を減らし 社会貢献と趣味に 真正面から取り組み

アーク証券の安藤龍彦代表取締役会長は、今年三月に喜寿を迎える。現在も会長としての仕事をこなすだけでなく、社会貢献事業も行い、アグレッシブに人生を楽しんでいる。安藤会長の現在を東京本社で聞いた。

「企業として永続するには」を考えたのは安藤会長が社長時代の六十五歳の時だった。「休みなく目いっぱい利益を上げるより、もう二〇年長生きして企業が永持ちする方が良いのではないかと考えたのです」。

その後はペースを落とし、現在の仕事量はピーク時の約一〇分の一となっている。短時間で会長職をこなし、名古屋と東京と月二回

往復して人脈を維持し、健康づくりに余念がない。「三十代」

四十代は働き続け、時間を作る余裕が無かった。今は経営手腕に加えて、健康と体力維持が大切になっていきます」と安藤会長。「人生の最終ラウンドを飾るための有終の美を模索してきましたが、一〇年来考えても分らない。ただ、私は生涯現役の方が一番楽しく、また良いのではないかとは思

います」

「老後」について
国も考え直していかないと

少子高齢化で年金支給額が減り、少ない年金で苦しい生活をする高齢者が増えている。「ハッピーリタイアなんてとんでもないという状態です。健康で能力のある人が七十歳まで健康で働き続けて月給一〇〜二〇万円もらえるようになれば、年金は七十歳からの支給でも可能になる。国は老後のビジョンについて考え直していかないとと思っています」。

現在の安藤会長は、朝五時半に起床し世界のニュースをチェック。七時四十分からの幹部会議に出かける。十時には主だった仕事を終え、時にはアーク証券が関わる不動産を見てまわる。囲碁や読書、美術館、歌のレッスンを楽しみ、健康のためにほぼ毎日プールで泳いでいる。「学校を出てから五〇年余、おかげさまで病気は四〇年前に一度風邪で休んだだけです」。

本格的な音楽活動

安藤会長は多彩な趣味を持つ